

◆◆特集◆◆

★平成28年度道路関係予算概算要求概要★

(国土交通省 道路局 総務課)

平成28年度道路関係予算概算要求の概要について紹介します。

◆◆訴訟事例紹介◆◆

★工事中の道路とこれに沿った迂回路との間を接続する脇道において、
軽乗用自動車は路外の低地に滑落し損傷した事故について、
管理瑕疵が争われた事例★

<平成26年12月5日 福岡地裁判決>

(国土交通省 道路局 道路交通管理課)

【事案の概要】

本件は、軽乗用自動車を運転して工事中の道路とこれに沿った迂回路との間を接続する形で設けられた脇道にて、原告運転の車両が路外の低地に滑落、損傷し、本件脇道への車両の進入を防止する等の措置が採られていなかったことが道路の設置管理上の瑕疵にあたると主張し、道路管理者に対し、国家賠償法2条1項に基づく損害賠償請求をした事案。

【判決要旨（一部容認）】

本件脇道付近は非常に暗く、視認状況が極めて悪かったものと認められ、誤認して進入する場合のあることは、被告において十分予見できた。三角コーンを設置するなど車両の進入を防止するための措置が講じてられていなかったという点において、通常有すべき安全性を欠いており、設置管理上の瑕疵があったというべきである。

◆◆TOPICS◆◆

★高速道路における逆走の現状とその対策について★

(国土交通省 道路局 高速道路課 有料道路調整室)

全国の高速道路では、2日に1回の割合で逆走が発生している。走行速度が速い高速道路での逆走は、重大な事故に繋がりがやすく、逆走した車両だけでなく、一般の車両も被害を受ける極めて危険な行為である。

高速道路を管理する高速道路会社では、その重大性に鑑み、警察庁、国土交通省等と連携し、逆走を未然に防ぐための対策を実施しており、今回その取り組みについて紹介する。

◇◆地域における道路行政に関する取組み事例◆◇

★不法に占用していた広告付き避難場所誘導看板の 簡易代執行による撤去について★ (近畿地方整備局 和歌山河川国道事務所)

和歌山河川国道事務所では、県下各地に設置された不法占用物件である「広告付き避難場所誘導看板」の撤去が、従前から是正指導を繰り返してきたにもかかわらず、長年の課題となっていました。きのくに国体の開催を控え、和歌山県との協力のもと、道路法第71条第3項に基づく簡易代執行により、多数の撤去を実施しました。本稿では、これらの経緯等についてご紹介します。

.....

★道路維持管理の取組み～群馬県★ (群馬県 県土整備部 道路管理課)

豪雨、豪雪、火山噴火など異常気象時における道路管理、定期点検や長寿命化計画など適切な道路構造物の維持管理、災害情報の迅速な収集と効率的な共有、技術職員の不足する市町村への支援など、群馬県における道路維持管理の取組みについて紹介します。

.....

★前橋市における道路維持管理★ ～優先度と効率性を重視した安全安心で快適な道路交通環境の提供～ (前橋市 道路管理課)

前橋市では、現地での速やかな修繕対応と将来的なライフサイクルコストの縮減を見据えた計画的な補修工事の両立が責務となっています。このような中、限られた予算の中で、優先度と効率性を重視しながら、職員による現地確認、道路照明 LED 化、通学路安全対策事業、除雪対策等の維持管理に励んでいます。

本稿では、これらの取組みについて紹介します。

◆◆編集後記◆◆

夜空を見上げると、煌々と輝く月をみることができる季節になりました。

川沿いの遊歩道をウォーキングしていると、秋晴れの空にくっきりと浮かぶ月が、まるでウサギがお餅をつく姿がみえてきそうなほどに輝きを放っており、その美しさに魅了されて、つい足を止めてしまいます。また、ユラユラと川面に映る月の姿をみるのが、心の癒しとなり、ウォーキングの励みにもなっています。

秋には、気温の低下に伴って空気中の水蒸気が減り、空が澄んで月面までくっきりとみることができます。そのため、四季の中で最も美しく月がみられる季節となります。また、冬の月は見上げるほどの高さにあります。春と秋の月は、ちょうどよく見える高さにあることから観賞に適しているとされています。しかしながら、春は「おぼろ月夜」といわれるように、花粉や黄砂によって霞がかかる日が多くなるため、秋の月が1番美しく観賞しやすいようです。

秋の月に関する行事といえば、旧暦8月15日にススキとお団子をお供えして月を観賞する「お月見」があります。この日の月は「中秋の名月」とも呼ばれ、1年でもっとも美しい月と称えられており、今年は9月27日にみることができます。お供えもののススキには、古くから魔除けの力があるとされ、無病息災を願って飾られていました。また、お団子は、お供えした後に食べることで、健康と幸せを得ることができると考えられていたようです。私はといえば、「中秋の名月」に関係なく、月を観ながらみたらし団子をいただくことを秋のウォーキングの楽しみとしています。

「お月見」の歴史は古く、文献上ではすでに、平安時代の宮中で「観月の宴」と呼ばれる“月を観ながら歌を詠む会”が行われていたという記録が残っています。

『月月に 月見る月は多けれど 月見る月はこの月の月』(詠み人しらず)

“月”という字の繰り返しが特徴的なこの歌は、“月”を8回使うことで、「この月」が8月であることを示した“言葉遊び”が含まれ、『1年中、月をみることができますが、名月をみるといえば今月のこの月ですね』という意味の短歌です。平安時代にはすでに、8月(旧暦)の月が1番美しいとされていたことを示しており、今も昔も人々が秋の月に魅了されることに変わりはないようです。

現在、NASA(米国航空宇宙局)では、月に移住するという夢のような計画が進められ、2024年までに月に有人基地を建設することを目指しています。平安時代の人々と同じように、今も変わらず「お月見」を楽しんでいます。いつの日か、月から地球を観てその美しさを楽しめる日がくるのかもしれませんが。(K)